

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会医療法人 凌雲会	代表者	稲次 正敬	法人・ 事業所 の特徴	住み慣れた地域・自宅での暮らしが維持できるよう、「通い」利用を中心に、利用者・家族の態に応じ「訪問」「宿泊」を組み合わせ24時間・365日固定された時間にこだわらず、一人ひとりの生活に合わせ臨機応変に対応し、その人らしい生活、暮らし方が継続できるよう、一日の決められた日程等を設けることなく、家事活動を中心に利用者の持っている意欲、力を引き出し生きがいの持てる暮らしを目指しています。私たちは、可能な限り在宅で暮らすこと、最期までその人らしい人生を送っていただけるよう、その人の思いと願いを大切にしたい支援・サービスを提供しています。
事業所名	小規模多機能ホーム 親の家	管理者	西浦 佳代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	人	2人	3人	0人	人	人	6人	人	11人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	ミーティングを行い、情報の共有に努める他に、利用者様だけでなく、家族様にも寄り添い（気軽に話を聞いたり、相談できるような）支援を行っていききたい。	送迎の度に、今日あった出来事を家族様にお伝えする事により、家族様からご自宅での状況や、ご家族様が考えている事等を話して下さるようになった。		親の家の理念や取組みを念頭に置き、引き続き利用者様や家族様に寄り添ったケアができるように取り組んでいく。
B. 事業所のしつらえ・環境	イベント行事以外にも、少人数で外出を行っていききたい。	利用者様によって散歩をしたり、ドライブに出かけたりと、個別で対応する事ができた。		個別での外出支援ができる事が増えてきたので、このまま少しずつ増やしていききたい。
C. 事業所と地域のかかわり	引き続き藍カフェを開催し、参加者や民生委員と情報交換したり、地域の方が気軽に訪問していただける環境を作っていきます。	藍カフェでの情報交換は色々できたと思うが、なかなか地域の方が訪問して下さるまでにはいたっていない。		地域の方が訪問して下さったり、参加できるようなイベント等を職員同士で話し合い、計画していききたい。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	今後も馴染みの店に買い物に行ったり、イベントに参加するなど、今以上に外出する機会を作りたい。	個別に馴染みのお店や美容院にお連れする事により、地域との繋がりを大切にしている。		現在はごく一部の方にとどまっているので、全利用者様に何かしら馴染みの場所にいけるようなケアを試みたい。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議の議事録や資料の配布をし事業所の活動内容を周知していきます。	議事録や資料を配布する事により活動内容を周知して頂く事はできているが、ご家族様に参加して頂くまでにはいたっていない。		運営推進会議で周知して頂く事が必要だが、家族様に参加して頂き、直接家族様の声が聞ける場所にもしていきたい。
F. 事業所の防災・災害対策	防災訓練を継続し、災害伝言の訓練も毎月行う。家族様に対しても災害時は災害伝言ダイヤルを活用することを伝える。	防災訓練や毎月の災害伝言ダイヤルを継続する事により、いざという時に対応できるようにしておく。		引き続き“いざ”という時に備え、防災訓練や災害伝言ダイヤルを続けていく。